



■はじめに

今年度、ぎふ清流GAP評価制度が国際水準GAPガイドラインに準拠した制度として新たに運用開始され、早急に指導体制を整える必要があることから、6～8月に農業者のGAP取組を支援する指導者を対象に「国際水準GAP評価規準に係る評価ポイント現地研修会」を開催しました。6会場で延べ約100人の参加がありました。

会場を提供いただいた生産者の方にお礼を申し上げるとともに、参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

ぎふ清流GAP推進センターでは、関係機関と連携を更に強化し、GAPの取組を推進していきます。

■トピックス ～「国際水準GAP評価規準に係る評価ポイント現地研修会」より～ 現地研修会の参加者からいただいた質問の一部をご紹介します。

Q: 評価項目「全6.10」の確認書類である事業継続計画(BCP)は、記載してある対応策の実効性や実施実績が、農場評価で求められますか？

A: まずは、災害等による営農への影響と対策について検討し、事業継続計画書として整理することが大切です。実効性や実施実績は、現時点で農場評価では求めません。

Q: 評価項目「全1.10」にあるマスバランスは、出荷先が多い場合、全ての出荷先について細かく把握しなければいけませんか？

A: 出荷先別ではなく、収穫量、出荷量、廃棄量について、全体で把握していれば問題ありません。

Q: 評価項目「全4.4.1」について、指定数量の1/5未満の既設の固定式燃料タンクの漏出対策は、タンク下にトレイを設置するだけでいいですか？

A: 漏出対策としてトレイ等を設置した上で、トレイに溜まった雨水の処分、タンクの腐食や配管の漏れの確認等も含め、定期的に自己点検を実施して記録に残す必要があります。



【燃料の漏出防止対策例】

■GAPでの重要な視点(環境や周辺への影響に関するリスク評価)

視点	農業活動は、環境や周辺へ何らかの影響を及ぼします。自身の農場では、どんな影響があるか、適切にリスク評価することが大切です。
----	---



環境や周辺への影響とは、具体的にどんなことが考えられますか？
また、リスク評価とは何をすればいいのでしょうか？

自然環境だけでなく、地域社会との共生等の社会的環境への影響についても考える必要があります。

まずは、環境汚染につながるリスクや地域社会との良好な関係構築に悪影響を及ぼすリスクを洗い出します。次に、リスクごとに危害の大きさと発生頻度から、リスクの大きさを評価します。

リスク評価の結果、危害の有無を確認し、危害がある場合は、軽減するための対策を検討しましょう。



<リスク例>考えられる環境・周辺への影響

堆肥や作物残渣による悪臭

養分の流出

野焼きの煙・悪臭

穀物乾燥施設や倉庫から出る音・振動・埃

防除機の騒音

燃料の漏出

農薬の漏出

風雨による土壌の流亡

農薬のドリフト

廃棄物やゴミの放置による汚染

農業機械による土壌の鎮圧

農業機械の振動・騒音

草刈機の騒音

【関連する評価項目】

- 全1.4
圃場、施設、設備、栽培地などでの農業活動におけるリスク
- 全4.5.1
農場の廃棄物と汚染源、その他周辺への影響の特定、管理計画と廃棄手段の文書化

イラスト出典：JAグループ福島「GAP実践帳2」

■「ぎふ清流GAP評価制度」に関する情報

Webサイト 検索 [ぎふ清流GAP \(岐阜県公式ホームページ\)](#)
制度の概要(要領・要綱の閲覧)、申請様式等のダウンロード、認証農場の紹介



■「ぎふ清流GAP通信」に関するお問い合わせ

(一社)岐阜県農畜産公社 ぎふ清流GAP推進センター

電話:058-216-1566 FAX:058-216-1567 Eメール:gifu-gap@gifu-notiku.com